

令和6年度 研究紀要

研究主題

国語科

叙述から正確に読み取る児童の育成

～授業 UD の視点を生かして～



小平市立小平第四小学校

研究主題・主題設定の理由

国語科 叙述から正確に読み取る児童の育成 ～授業UDの視点を生かして～

小平第四小学校では、令和6年度「全国学力・学習状況調査」、「児童生徒の学力向上を図るための調査」から、国語では最後の物語文の読解の問題で無回答率が高くなったことから、時間が十分に足りないと感じた児童がいた。限られた時間で要点は何かを考えて読み取る力を付ける必要がある。

そこで、令和6年度は昨年度に引き続き国語の指導に「授業UD（ユニバーサルデザイン）」の手法を導入し、文学的な文章の単元から説明的な文章の単元に広げ、指導法を研究していく。また、クラスで授業を受けるすべての児童が積極的に学習に参加し、内容を理解できるような指導法を工夫していく。

国語授業の
ユニバーサルデザイン

論理を授業の目標にする

焦点化

視覚化

共有化

目指す児童像

◎正確に読み、正確に書く児童

- ・物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく児童
- ・多様な考えを認め、協働していく児童

◎情報から分析し、判断する児童

- ・問題を発見し、粘り強く解決する児童
- ・学習を見通し振り返る児童

研究の視点

「インプット3・アウトプット7」
の授業作り

学びに向かう人間性

知識・技能

思考力・判断力・表現力

既習事項の確認と共通認識

自分の考えを出すための個人作業

思考を深め整理するための全体共有

教材研究の共有化

「教材研究」「発問づくり」を中心に教材の解釈が見える形に残し、共有化。

発問・指示の明確化

全員の考えが出しやすくなるように Which型発問を取り入れるなど指示の工夫。

手だての焦点化

アウトプットしたくなる学習課題と効果的な対話ができる学習形態の工夫。

学習計画

- 第1時 物語を読み、感想をもつ。
- 第2時 難しい言葉の意味を調べ、語彙を増やす。
- 第3時 物語の設定を捉える。(設定)
- 第4時 情景描写の効果を知る。(情景描写)
- 第5時 ごんの人物像を捉える。(人物像)
- 第6時 ごんの心情の変化のきっかけを捉える。(心情の変化のきっかけ)
- 第7時 物語の視点を知る。(視点)
- 第8時 視点の変化の効果を考える。(視点の変化)【本時】
- 第9時 ごんと兵十の関係を捉える。(関係の変化)
- 第10時 ごんと兵十の関係の変化を捉える。(関係の変化)
- 第11時 物語の結末について、感想をもつ。(読後感)
- 第12時 学んだ学習用語を活かして、「手ぶくろを買いに」を読み、感想を書く。(情景描写・視点・関係の変化)

手だて

【授業 UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

◇視覚化

- 比べる文章を一枚のプリントの上下段に載せ、視覚的に対比しやすくする。
- ロイロノートを用いて、イラストの提示、出来事の順序を並び替えるなど、視覚的に内容を捉えやすくする。

◇焦点化

- 1時間に一つの学習用語を取り上げていく。
- Which 型発問を行い、考えるポイントを絞りやすくする。

◇共有化

- ペアでの話し合い活動、ネームプレートによる立場の表明など、様々な表現活動を取り入れる。
- 表現の型を与え、児童の負担感を減らす。

授業 UD の具体的場面 授業の様子

- ★課題に対する自分の意見を、ネームプレートを貼って示すことで明確化できた。結果、児童は自分と同じ意見の友達を探して主体的に意見交流することができた。また全体発表の場では、円形の自由発表とし、意見が活発になった。
- ★「おれ読み」を取り入れ、ごん視点なのか兵十視点なのかを明確にし、視点に転換をおさえた。



成果と課題

- ◎論理を授業の目標にし、視覚化や Which 型課題によって子ども一人一人が授業に熱中していた。
- ◆視点の交換の効果を深めるための Which 型課題の提示の仕方が課題となった。

学習計画

- 第1時 教材文を想像しながら聞き、感想をもつ。
- 第2時 教材文を読んで感じたことを伝え合い、見通しをもって学習を進める。
- 第3時 登場人物の様子を、本文をもとに読み取る。(ナニヌネノンの人物像)
- 第4時 登場人物の様子を、本文をもとに読み取る。(物語の設定)
- 第5時 登場人物の行動や出来事を、言葉や挿絵を手掛かりにして捉える。
- 第6時 登場人物の行動や出来事を、自身の経験や本文の叙述をもとに捉える。【本時】
- 第7時 自身が好きなところが伝わるように、家の人にお話を紹介する文章を書く。(場面と理由)
- 第8時 自身が好きなところが伝わるように、家の人にお話を紹介する文章を書く。(紹介文)
- 第9時 学習を振り返り、「この本、読もう」で紹介されている本など、図書館で同じような本を読む。

手だて

【授業 UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

◇視覚化

- 本文の全文を B4 判用紙1枚で読めるようにし、ワークシートとして印や線を引くことで内容を視覚的に把握できるようにする。

◇焦点化

- 文学的文章を読むための「論理」を指導する。「論理」を基に、叙述をもとに正確に読むことを意識させる。

◇共有化

- ワークシートに線や印を付けて叙述に注目する活動を、立ち歩きによる自由討論に繋げる。

授業 UD の具体的場面 授業の様子

- ★課題に対する自分の意見を、ネームプレートを貼って示すことで明確化させた。結果、児童は自分と同じ(違う)意見の友達を探して、主体的に意見を自由討論することができた。
- ★「みきのたからものは？」の問いに対する解が複数考えられるため、児童は自分の解とその理由を本文から探し、より適当だと思われる解について熱中して思考をめぐらせた。



成果と課題

- ◎叙述をもとに教師の解釈があり、児童の思考の深まりになっていた。
- ◆本時の学習課題に迫る Which 型課題の提示(選択肢)の仕方が課題となった。

実践事例③

第5学年 教材名「想像力のスイッチを入れよう」

(学習課題 4つのスイッチの効果を捉え、自分の考えを書く。)

学習計画

- 第1時 筆者の説明の工夫を知り、学習の見通しをもつ。
- 第2・3時 事例とその事例に対する筆者の意見を整理する。
- 第4時 筆者の考える想像力のスイッチとは何かについて考える。
- 第5時 4つのスイッチから、自身の生活と結びつくスイッチを一つ選び、自分の考えを書く。【本時】
- 第6時 書いたものを読み合い、互いの考えの似ているところや違うところを見付け、交流する。

手だて

【授業 UD】を使った全員参加・全員理解に向けての手だて

◇視覚化

- 全文シートを活用し、一目で全文を確認できるようにする。
- 全文シートに色と形を分けてサイドラインを引き、どこに何が書かれていたのか分かりやすくする。
- 事例を掲示し、視覚的に内容を捉えやすくし、いつでも振り返ることができるようにする。

◇焦点化

- 1時間に一つの学習用語を取り上げていく。
- Which 型発問を行い、考えるポイントを絞りやすくする。

◇共有化

- ペアでの話し合い活動、ネームプレートによる立場の表明など、様々な表現活動を取り入れる。

授業 UD の具体的場面 授業の様子

- ★導入でこれまで扱ってきたニュースや、新たなニュースを取り上げ、どの想像力のスイッチを使って考えるとよいかを振り返った。児童は自分で取り上げた事例に対して、どの想像力のスイッチを使って捉えるかを考えることができた。
- ★自分が使った想像力のスイッチがどれか立場を提示し、同じスイッチの友だち同士で意見を交流することで、同じ想像力のスイッチでも異なる事例で活用できると考えを広げることができた。



成果と課題

- ◎前時までの学習を掲示することで、それを手がかりに自分の考えをもつことができた。
- ◆確認読みの段階の授業に留まったため、解釈読み、評価読みをすることに課題が残った。

今年度の成果と課題

- ◎研究授業と協議会、講師からの指導をもとに、文学的な文章・説明的な文章を扱う単元で、論理を授業の中心として、焦点化、視覚化、共有化の具体的な手立てを取り入れて授業を組み立て、実践することができた。年間を通して各クラスの担任が国語の授業でどの論理を取り入れるかを考え、実践を行った。多くの児童が意欲的に参加し、深く考える姿を目の当たりにすることができ、その有用性を実感することができた。
- ◎授業 UD を取り入れることで、教員にとっても単元全体の指導内容が明確になり、より分かりやすい授業作りに繋げることができた。
- ◆児童が課題を探究できるような Which 型発問ができるように、各教員がそれぞれの授業作りの中でより検討したり、工夫したりする必要がある。
- ◆説明的な文章で、3つのレベルの読む力(確認読み、解釈読み、評価読み)をどこで行うかを検討し、児童がより深く文章を理解できる授業づくりに取り組む必要がある。